



住民の半数以上が外国にルーツを持つスウェーデン・セーデルテリエで、『Right-Left』および『Viskleken』という社会介入を行なった後、それらをオーストリアの文脈で展開させることにした。この二つの国は、欧州での難民危機において、国民一人当たりの亡命申請受領数が最も多かった。移民難民の受入という門戸開放の方針を採るスウェーデンに対し、オーストリアはそのかわりに紛争地域の状況を解決する為に現地に投資する方針である、と当時外相(現首相)のセバスチャン・クルツは語っていた。

ウィーンで知り合った二人の人物をプロジェクトに招待し、お互いに面識がなく、込み入った国際情勢を想起させる背景をそれぞれ持つ彼女たちに、クストハレにあるアトリエの窓に、彼女たちの言語で言葉を書いてもらうというワークショップを行なった。

最も遠い存在、そして(非)一致点

イラン出身のハステイは、フィンランドにしばし住んだ後、現在はウィーンに住んでいる。母語はペルシャ語で、クルド語、ドイツ語、ロシア語と英語に馴染みがある。ロシア出身のイリナはアムステルダムに移住して既に長く、ウィーンにヶ月滞在中。母語はロシア語で、ヘブライ語、オランダ語、セルビア語と英語に馴染みがある。ハステイが自分にとって「最も遠い存在」はイスラエル人だと言うのを聞き、彼女の相手としてイリナを選んだ。

交互に導き、追う

一方にハステイが、もう一方にイリナが、内側に90度開かれた窓を挟んで向かい合い、佇んでいる。白の顔料マーカーを手に、もう一方が読めるように窓に鏡文字で書く。イリナが先に書いた言葉を、ハステイが翻訳したり、そこから連想したりした言葉を書く。イリナがゆっくりと鏡文字を書いているガラスの向こう側で、ハステイはそのペンのうごきをなぞる。二人はその主導する役と追従する役を交換しながら、続けてゆく。私はその側で、時折質問したり提案したりしながら、彼女たちの言葉のやりとりを録音する。

対話と軌跡の再演

この対話がいかに静かに始まり、リズムに乗って展開していったかを録音は捉えている一鏡文字で書くことに苦戦するイリナは正しく書けているか何度も確認し、二人は一つの言葉を多様な言語へと広げ、イリナはペルシャ語の文字の美しさを讃え、ハステイは言葉を発音してその豆知識を伝え、イリナはペルシャ語の言葉の意味ではなく発音の類似からロシア語の言葉を連想し、そこからポーランド語とロシア語では同音反意となる言葉へとつなげ、そして二人はそれぞれにとって外国語であるアラビア語から借用された一つの言葉を、自らの母語に見出した。

パブリックプレゼンテーションでは、二人の書いた文字の残る窓を当時のように開き、その両側に配置されたステレオスピーカーでやりとりの録音を再生した。また、もう一つの書き込みのない窓を半開きにして顔料マーカーを添え、来場した観客も鏡文字を書いての他者との対話を自ら体験できるようにした。



自由(ロシア語)	罪(ロシア語)
自由(ペルシア語)	取じて(ペルシア語)
自由(ロシア語)	魅力(ロシア語)
自由(ドイツ語)	魅力(英語)
直観(ロシア語)	美(ペルシア語)
直観(ペルシア語)	美(ロシア語)
直観(英語)	美(セルビア語)
	美(ポーランド語)/醜い(ロシア語)

自立(ロシア語)	醜さ(英語)
自立(ペルシア語)	醜さ(ドイツ語)
権利(ペルシア語)	きれいな(オランダ語)
法律(ロシア語)	喜び(ペルシア語)
規律(英語)	喜び(ロシアの俗語)
義務(ペルシア語) 罪悪感(ペルシア語)	[アラビア語からの借用語]
罪悪感(ロシア語)	喜び(アラビア語)
罪悪感(英語)	喜び(英語)

(左頁)窓に残された対話の痕跡。ハステイもイリナも鏡文字で書かなくてはいけなかったため、筆跡はたどたどしい(右頁、上から下へ) 窓を挟んで向かい合い、書いて、辿る;左側のイリナがロシア語を鏡文字で書き、右側のハステイがそれを辿る;窓にかかれた言葉の写し。括弧内は用いた言語;窓とスピーカーのあるインスタレーション風景



Duet of Lines (Side by Side) 線の対話

2019年

ワークショップ + インスタレーション (ガラスに顔料マーカー、ステレオスピーカーで録音再生)

録音: 約40分

クストハレ・エクスナーガッセ(ウィーン)でのプロジェクト『追熟と訛り: 所作の敷衍』の一部として

